

# 対マレーシア 国別援助方針

平成 24 年 4 月

## 1. 援助の意義

マレーシアは、国際海上交通の要衝であるマラッカ海峡の沿岸国として地政学的重要性を有し、日本企業の主たる海外進出拠点の一つ（日系企業約 1,400 社が進出）であるとともに、天然ガスの主要な輸入先である等、経済的重要性も高い。また、我が国との関係を重視して、従来から「東方政策」を推進しているほか、安定した穏健イسلام国家として、国際場裡においても一定の発言力を有している。

さらに、マレーシアは、我が国との開発協力、貿易、投資が相乗的に効果を上げて、ASEAN の中でも目覚ましい経済発展を遂げた成功事例として位置付けられる。

一方、先進国入りに向け、経済の高付加価値化、開発と環境保護の調和、教育・就労機会の均等化、社会的弱者の保護などが依然として重要課題となっている。

また、マレーシアは ODA 卒業移行国<sup>1</sup>となっており、従来の援助国・被援助国としての関係から、より水平的なパートナー国としての開発協力のモデルを作る上でも重要な国である。

## 2. 援助の基本方針（大目標）：①協力パートナーとしての関係構築、②東アジアの地域協力の推進

二国間協力にとどまらず、東アジア地域や国際社会での共通の目標に向けて協力するパートナーとしての関係構築を目指す。マレーシアのさらなる発展への支援を通じて、ASEAN 統合、ひいては東アジアの地域間協力を推進し、将来的には同地域を越えた国際社会の課題に共同で取り組むグローバルな開発パートナーとしての関係を構築する。

## 3. 重点分野（中目標）

### （1）先進国入りに向けた均衡のとれた発展の支援

マレーシアが 2020 年を目標に先進国入りを目指していることも踏まえ、行政能力向上、産業人材育成を含む高等教育、インフラ整備、エネルギー等、更なる経済成長に資する支援と共に、環境保全、社会的弱者支援等社会の安定に資する支援につき、官民連携の観点も考慮しつつ実施する。これらにより相互に利益を増進し、マレーシアの発展が地域のモデルとなるような支援を行う。

---

<sup>1</sup>中進国を超える所得水準の開発途上国で、2012 年度においては 2010 年の一人あたり GNI が 6,925 米ドル以上（マレーシアは 7,900 米ドル）の DAC の途上国リスト掲載国を指す。

## (2) 東アジア地域共通課題への対応

東アジア地域全体の利益の増進のために、ASEAN 連結性向上、海洋安全、防災協力、感染症対策等の東アジア地域共通の課題に対応するべく、人材育成、相互協力の推進強化を含め、これらの課題に関するマレーシアの取組に対する支援を行う。

## (3) 東アジア地域を越えた日・マレーシア開発パートナーシップ

東アジア地域を越えた国際社会の課題に共同で取り組むグローバルな開発パートナーとしての関係構築のため、マレーシアの援助ドナー化、パレスチナやアフリカ等域外の課題に関する南南協力等を行う。

## 4. 留意事項<sup>2</sup>

マレーシアへの協力に当たっては、ODA 卒業移行国に対する開発協力のモデルの構築を目指すとともに、2015 年に予定される ASEAN 共同体の創設とその後の展開が東アジア地域の将来の繁栄と安定に大きな影響を与えることを念頭に置く。

(了)

別紙： 事業展開計画

---

<sup>2</sup> なお、当該国を対象として実施された過去の ODA 国別評価は次のとおり。

マレーシア国 国別評価 (2010) 報告書掲載先：  
[http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/malaysia/kn10\\_01\\_index.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/malaysia/kn10_01_index.html)